

V-103 プレストレストプレキャストコンクリートを応用した海洋構造物の急速施工法に関する研究

運輸省港湾技術研究所 正会員 大郎 信明

1. 研究の目的及び概要：プレストレスプレキャストコンクリートを海洋構造物として用いる場合、海洋での外力条件に対する力学的性質及び施工上問題となる接合法の又点に関して検討する必要がある。本研究では、力学的性質に関してPCパイルの曲げを考え、設計荷重を上回る荷重及び繰り返し荷重を加え、それらがPCパイルのたわみ、ひずみ、ひびわれ及び破壊荷重に与える影響を検討した。また、接合法としてはPCパイルの溶接接合及びPCはりのエポキシ樹脂又は後打ちコンクリートを目地とした接合法を検討した。

2. 荷重の考え方：海洋での外力条件は、繰り返しの性質を有し又予想困難な波力が代表される。このことを考え、本試験では供試体に設計荷重を上回る荷重（ここでは0.6Pult）によりひびわれを発生させ、荷重I（引張応力が0となる荷重）及び荷重II（Pult/2.5）による共振り、両振りの繰り返し載荷を行い、それに伴う破壊荷重等の変化を検討した。なお、PCはりについての繰り返し荷重は荷重IIのみとした。

3. 繰り返し載荷によるPCパイルの力学的性質の変化：本試験で使用したPCパイルの概略を資料-11に示す。繰り返し載荷の影響を検討するため、0より50までのPCパイルのたわみ、圧縮側コンクリートのひずみ、ひびわれ幅を10⁴回ごとに測定し、これを繰り返し載荷を受けないPCパイルの測定値と比較したものを作成した。この表より、YF-Fを除き、繰り返し数が増すにつれて、いずれも減少することが認められ、PCパイルは疲労初期段階ではcyclic hardeningを生ずるものと考えられる。これに対してYF-Fは、いずれの測定値も増加する傾向がある。YF-Fの場合、PC鋼線の疲労寿命をHilms & Ekbergの式より求めると、10⁶回ではその数10%を費しており、この段階ではcyclic softeningを生じていると考えられる。又、接合部を有するA型パイルのたわみは、接合部を有しないY型パイルに比較して少なく、この接合法の欠点としては図-1に示すように引張側のコンクリートと鋼材部との一体性に若干疑問が有るか、実用上は無視できると判断される。実際に、破壊モーメント及び曲率を表-1に示す。これによると、繰り返し荷重によって破壊モーメントは低下しないが、曲率は低下し、その傾向は片振り載荷で著しい。

4. 接合部を有するPCはりの力学的性質：单体、後打ちコンクリート接合部を有するはり及びエポキシ樹脂接合部を有するはりのたわみ、ひびわれ幅及び破壊モーメントの相違をA型はりの試験結果より述べる。ひびわれについては、発生荷重はほとんど変わらないであるが、最大ひびわれ幅に対する荷重は、0.1, 0.2, 0.3mmとなるにつれてA-1型、A-2型、A-3型の順となる傾向が明らかとなり、又、破壊モーメントも同様であるが、たわみについては明確ではない。又、ひずめのはりについても繰り返し荷重により、ひびわれ幅及びたわみは減少し、破壊モーメントは増加することが認められる。更に、後打ちコンクリート接合部を有するはりにおけるプレストレス量の影響についてA-2型、B-2型、C-2型、E-2型はりの試験結果より述べる。最大ひびわれ幅に対する荷重を比べると、ひびわれ発生荷重はプレストレス量の多いものは大きいのは当然であり、0.1mmに対する荷重も同様であるが、0.2mm、0.3mmとなるにつれてその差は小さくなり、0.3mmではA-2型よりもB-2型の方が大きくなるようである。しかし、0.3mmではC-2型、E-2型はRCはりの单体よりも小さな荷重となり、PCとしての利点が少なくななる。

5. まとめ：PCパイルは、繰り返し荷重により、たわみ、ひずみ、ひびわれ幅、破壊モーメントを多少の変化を受けるが、破壊時の曲率が大きな影響をうける。溶接接合及び後打ちコンクリート接合の力学的性質は比較的良好である。

なお、本研究は昭和52年度吉田奨励金を受けたものであり、感謝の意を表します。

資料-1 供試体の種類及び形状・寸法

PCパイレ 形状・寸法はすべて $\phi 300\text{mm}$ ($t=60\text{mm}$) $l=5\text{m}$, $\sigma_7 = 250\text{kg/cm}^2$

X型 JIS A種相当

PCパイレ $175 \cdot 100 \cdot 175$

Y型 JIS C種相当

PCパイレ $130 \cdot 90 \cdot 130$

Z型 JIS C種相当(溶接接合) PCパイレ

PCパイレ $130 \cdot 90 \cdot 130$ (単位:cm)

PCはり 形状・寸法はすべて $200 \times 3/0 \times 4000$, $\sigma_7 = 250\text{kg/cm}^2$

A型 $A_p = A_{pc} = 2.654\text{cm}^2$, $\sigma_{ce} = 65\text{kg/cm}^2$ (A-1:単体, A-2:後打ちコンクリート接合部, A-3:エポキシ接着剤接合部)

B型 $A_p = A_{pc} = 2.654\text{cm}^2$, $\sigma_{ce} = 50\text{kg/cm}^2$, $A_s = A_{sc} = 2.534\text{cm}^2$ (B-1:単体, B-2:後打ちコンクリート接合部)

C型 $A_p = A_{pc} = 1.327\text{cm}^2$, $\sigma_{ce} = 55\text{kg/cm}^2$, $A_s = A_{sc} = 3.902\text{cm}^2$ (C-1:単体, C-2:後打ちコンクリート接合部)

E型 B型と同じで、有効高さは25.0cm, $A_p = A_{pc}$ は引張測定及び圧縮側PC鋼筋断面積

$A_s = A_{sc} = 12$

また、全はりで有効高さは25.0cm, $A_p = A_{pc}$ は引張測定及び圧縮側PC鋼筋断面積

$A_s = A_{sc} = 12$

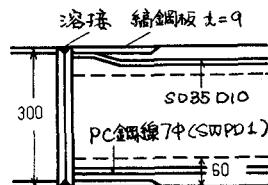


図-1 溶接接合接合部図 (単位:mm)

使用PC鋼筋棒

A型 SBPR 95/110

その他 SBPR 80/95

使用鉄筋 SD35

表-1 PCパイレ試験結果

パイレの種類	たわみ測定値 (mm)						圧縮側コンクリートひずみ ($\times 10^{-6}$)						ひびわれ荷重 (mm)							
	測定したサイクル数 (0~5t)	最終	1	10^3	10^3	10^3	10^3	10^3	測定したサイクル数 (0~5t)	最終	1	10^3	10^3	10^3	10^3	サイクル数 最終 フラック ロード	N=1以前 の載荷			
YF-A	6.18	6.20	6.30	6.17	5.89	5.92	5.68	10.78	436	436	438	429	419	421	417	722	0.05	0.04	0.10	+30t
YF-C	7.14	7.14	7.15	7.08	6.88	6.65	6.23	11.52	492	489	499	494	471	447	443	760	0.08	0.05	0.20	-30t
YF-D	7.23	6.63	6.64	6.64	6.53	6.44	6.19	11.46	527	478	—	—	482	470	436	787	0.05	0.05	0.20	-7.5t
YF-F	7.49	7.24	6.98	6.71	6.47	6.29	8.89	16.25	490	500	500	472	462	454	565	950	0.05	0.10	0.23	-7.5t
YS-C	7.02							(3.38)	482							869	0.05		0.20	-7.5t

繰り返し載荷: YF-A, YF-C (0~3t), YF-A (0~5t) 傾

YF-C, YF-D, YF-C (-3~3t), YF-F, YF-D (-5~5t)

YS-C, ZS-B (繰り返しあげひい) 荷重I=3t

荷重II=5t

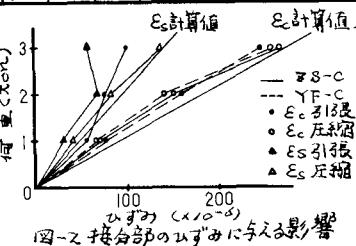


図-2 接合部のひずみに与える影響

表-3 PCはりの試験結果

ひびわれの限界荷重をもつする荷重(力) たわみ測定値(mm) 破壊モーメント(kNm)

種類	ひびわれ荷重			最大ひびわれ幅(mm)			0~3t		0~5t		破壊モーメント		
	荷重	1	10^3	0.1	2×0.3	1	10^3	1	10^3	1	10^3	Test	Cal
A-1-B	3.7	2.8	—	6.0	7.0	8.0	(4.49)	1.91	(2.73)	3.22	6.70		
A-1-C	3.8	2.8	2.8	7.0	9.0	11.0	1.16	1.37	2.19	2.60	10.89	a	
A-1-D	4.0	3.0	—	6.0	7.5	8.0	(1.34)	1.59	(2.52)	2.94	6.97	b	
A-2-B	3.6	2.8	—	5.5	7.0	8.0	(1.42)	1.53	(2.66)	2.78	6.89	c	
A-2-C	3.5	2.8	2.8	7.5	9.0	10.0	1.34	1.27	2.41	2.28	9.51	d	
A-2-D	3.8	2.8	—	5.0	6.0	7.0	(1.39)	1.82	(2.56)	3.25	6.95	e	
A-3-B	3.5	3.0	—	4.0	5.0	6.5	(1.69)	1.89	(2.98)	3.53	5.63	f	
A-3-C	3.8	2.8	2.8	6.0	8.0	9.0	1.27	1.33	2.30	2.27	9.04	g	
A-3-D	3.8	2.8	—	5.0	6.0	6.5	(1.42)	1.74	(2.64)	3.25	5.99	h	
B-1-B	3.0	2.2	—	6.0	8.0	10.0	(1.72)	2.70	(3.89)	4.60	8.28	i	
B-1-C	3.6	2.4	2.3	6.5	8.5	10.0	1.40	1.64	2.59	2.98	10.82	j	
B-1-D	3.5	2.4	—	6.2	8.0	10.0	(1.45)	2.09	(2.91)	3.51	8.84	k	
B-2-B	2.8	2.3	—	4.2	6.0	9.0	(1.67)	2.44	(3.24)	3.90	8.91	l	
B-2-C	2.8	2.4	2.4	4.0	6.0	11.0	1.69	1.65	2.99	2.99	10.86	m	
B-2-D	3.0	2.2	—	4.0	8.0	10.0	(1.80)	2.54	(3.93)	4.41	9.36	n	
C-1-B	2.0	1.4	—	4.0	6.0	7.5	(2.08)	2.98	(6.31)	5.52	7.12	o	
C-1-C	2.6	1.6	1.4	1.5	3.5	7.5	2.55	3.01	4.54	5.24	9.02	p	
C-1-D	3.0	1.6	—	5.0	6.5	7.5	(1.86)	2.83	(4.99)	5.36	6.73	q	
C-2-B	2.0	1.4	—	3.0	5.0	6.0	(2.35)	3.09	(5.32)	5.59	7.12	r	
C-2-C	1.8	1.4	—	2.0	3.0	4.0	(2.65)	3.89	(6.02)	6.62	6.73	s	
E-1-B	3.0	2.2	—	5.5	7.0	9.0	(1.81)	2.07	(3.51)	3.64	8.53	t	
E-1-D	3.2	2.3	—	5.0	6.0	9.0	(1.95)	2.12	(3.88)	3.96	9.12	u	
E-2-B	3.2	2.0	—	4.0	5.5	7.0	(2.14)	2.25	(4.36)	4.19	7.80	v	
E-2-D	2.9	2.3	—	4.0	5.7	7.0	(1.94)	2.36	(3.97)	4.32	7.93	w	
RC-B	0.9	0	—	3.0	6.0	8.0	(3.63)	4.60	(7.02)	7.20	6.25	x	

単位: tkm 及び $\times 10^3\text{cm}^3$

a: 標準示力書(東)

b: 設計施工自重

c: ACI

d: Hognestad

注: ここでのひびわれ荷重は荷重-たわみ曲線より求めたもの

()は欠載荷のもの

()番号の最後の文字は次のことを表す

B: 角のモーメントを加えたもの

C: 方振り系繰り返し載荷

D: 通常の静的載荷